２０２３年　全国高校放送コンテスト・愛知県大会

ドキュメント部門　全体講評

まずは、制作お疲れ様でした。コロナの状況が変化し、学校生活・部活動もたくさんの影響を受けながらの制作で大変だったと思います。その中で、いま自分たちが伝えたいことは何か、部員同士、先生たちと徹底的に議論を重ねられたと思います。初めて審査員をやらせていただきましたが、テレビ・ラジオ部門の27作品全てに、こだわり・工夫が入っていて驚きましたし「こんなアイデアがあるんだ！今度真似してみよう」と思うものも多々ありました。なにより、みなさんの作品作りへの“熱”を感じました！

ここで、私が新人の頃に言われて、今も大切にしていることをお伝えしたいです。「番組（作品）は1人では作れない」ということです。放送の現場ではディレクターだけでなく、取材先、カメラマンさん、音声さん、照明さん、編集さん、音響効果さん･･･など、様々な人の力を結集して番組が作られています。みなさんは、取材を受けてくださった方、仲間、先生方、親･･･たくさんの人たちに“熱”が伝わったからこそ、協力してもらえて作品ができたと思います。忘れがちですが、今一度、お礼を伝えてほしいと思います！これからも、“熱”を大事に、素晴らしい作品を生み出していってください！私も頑張ります！

【ラジオドキュメント部門】

面白い演出を凝らした作品、感動する作品、考えさせられる作品など、バラエティーに富んだもので楽しかったです。工夫が必要だと思ったのは、登場人物が多くなりすぎると、誰が話しているか分からなくなる点です。たくさんの取材先が出るのはいいと思いますが、初めて聞く側にとっては、誰が話しているんだろう？と思っているうちに、次の展開に行ってしまい内容が入ってこない･･･というものがありました。構成にもよりますが「■■にくわしい○○さんです」とか「○○さんに話を聞きました」など一言入れてもいいと思いました。また取材先に男性が多いなら、ナレーションは女性がやるなど区別をはっきりさせて、“初めて聞く人が分かる内容になっているか”という“引いた視点”で今一度作品を見直すといいと思います。

【テレビドキュメント部門】

　撮影・編集の技術がすごいと思いました！“イメージ”のカットをちゃんと撮っていたり、インタビューで話している内容や人物の“説明テロップ”が入っていたりするなど、ちょっとしたことですが、細かいところまでやることで作品の完成度が上がると思いますので、今後もやっていって欲しいと思いました。

　改善点を挙げるなら「作品の入口・冒頭の作り」だと思います。冒頭でいかに視聴者の関心を引くか、は重要です（テレビも同じです）。なぜいま、このテーマなのか？何について探る作品なのか？を、どんな映像表現・演出で伝えるのか？を工夫するといいと思います。例えば、いきなりインタビューから入る、文字だけの画面で入る、ナレーションなしで何かが起きている現場の画から入る･･･など選択肢はたくさんあります。説明が多すぎるとつまらないけれど、全く説明がないと、何についての作品かわからない･･･というジレンマをどう乗り越えるか？クリエイターの力量が試されますが、そこが醍醐味でもあると思うので、頑張ってほしいと思います！

ＮＨＫ名古屋放送局コンテンツセンター（制作）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　三浦　弘之